

(参考様式3)

会 議 録

| | | | | |
|---|--|--------------|------|---|
| 会議の名称 | 第21期第5回東村山市立公民館運営審議会 | | | |
| 開催日時 | 令和4年1月17日 午後6:00～午後8:00 | | | |
| 開催場所 | 中央公民館 2階第3集会室 | | | |
| 出席者 及び欠席者 | ●出席者： (委員) 佐藤会長、小山副会長、岩浪委員、岩松委員、杉山委員 角町委員、鶴田委員、永吉委員、村上委員、森山委員 (市事務局) 公民館長 肥沼、公民館館長補佐 齋藤、事業係長 川嶋 萩山公民館長 半井、秋津公民館長 田中、富士見公民館長 町田 廻田公民館長 山岸 ●欠席 | | | |
| 傍聴の可否 | 可 | 傍聴不可の場合はその理由 | 傍聴者数 | 0 |
| 会議次第 | 1. 会長あいさつ 2. 審議事項 (1) 令和4年度市民講座のテーマについて 3. 報告事項 (1) 令和3年度主催事業及び市民講座の開催状況について (2) その他 4. その他 (1) 次回日程について | | | |
| 問い合わせ先 | 教育部公民館 担当者名 齋藤 電話番号 042-395-7511 ファクス番号 042-395-7515 | | | |
| 会 議 経 過 | | | | |
| <p>【会長】 こんばんは、今日は令和4年度の市民講座のテーマについて議論していただきたい、現在候補として20講座事務局より示されているが、各委員にご意見等いただきながら、10講座に選定してまいりたい。これまでの経過等を事務局より説明を行う。</p> <p>【事務局】 毎年この時期に次年度の市民講座のテーマについて東村山市立公民館運営審議会の委</p> | | | | |

員の皆様に選定していただいている。例年であれば、議題が他にもあることから持ち帰っていただき、後日投票にて決定していたが、今年度は各委員にご意見をいただいた中で、10講座を選定していただきたいと考えている。

事務局より資料の説明

【会長】

参考資料として、令和3年度版があるが令和4年度と比べると内容も大きく変化している。答申に向けた中間報告でもあるように、若い世代を呼び込みたい。選定の方法であるが、これまでの会議の中で出たキーワードも照らし合わせて、委員からの意見を伺いその後、講座の選定をおこなうことでどうか。

【委員】

委員それぞれの考えを述べていくという認識でよいか。

【事務局】

昨年度までは、この場でテーマをお示しさせていただき、後日提出していただいていたが、今回はテーマに沿って、委員の皆様が今感じている事やキーワードとの結びつき等、フリーにご発言いただきたい。今後展開する中でヒントになるようなご意見をいただき、講座のテーマ10項目を選定できることが望ましい。限られた時間ではあるがお願いしたい。

【委員】

これまでの経過の中で、キーワードについては、どの講座に反映しているのか説明を求める。

【事務局】

市民講座ボランティア会議を実施した際にキーワードについて説明し一番重要なのは、30歳代・40歳代の参加の促進である。選定を行う際、そこに結び付くよう意識していただいた。

【委員】

進め方として、少し時間をいただき意見交換を行い、各委員が10項目選び挙手してもらい決めるのはどうか、そこで多かった講座をピックアップして決めていく方法が良いと思う。

【委員】

確かに、その方法は良いと思うが、しっかり話し合いをして結論を出すことも大切である。

【委員】

もちろん、話し合いは大切であるが、話し合いの進め方がすごく難しいと感じた。

【会長】

事前に事務局と打ち合わせを行い講座の話をしたが、一つ一つの項目でも言葉では見えない部分や思いもあるので、選定するには委員一人一人が理解する必要がある。

【委員】

やはり、話し合いの時間が必要で、その後に決めていく方法がベストであると考えている。

【事務局】

IT リテラシーや ZOOM やスマホの使い方などは、公民館の講座ではなく、他の方法で習得することもできるが、例えば市民の活動団体が人を集めなくても、活動を継続していけるよう、ZOOM の活用方法等、講座の中で組み込んだりすることで、コロナ禍における活動の継続につながるのではないかと考えている。この資料からでは読み取れない部分もあると思うので、ご発言・ご教授いただけるとありがたい。

【委員】

意見を出すなら、全てではなく各委員が感じる事をフリートークした方が効率的に良いと考える。

【委員】

3 番の SDGs について、SDGs の取り組みをいろいろ見てみようで終わってしまっているのと資料 2 のテーマ原案の SDGs の分野「環境・生活を考える」にしかないが、「若者参画の推進」、「男女共同参画の促進」すべて SDGs に関わっており基本なので SDGs を入れないという選択肢はない。先進的な活動を行っている地域もあるので、もう少し中身を学んだ上で、一步踏み出す勢いで SDGs の講座を行うと良いと思う。

【委員】

同感である。他の地域を学ぶのも良い。東村山市内でもいろいろと、やられている方も居ると思う、そういった事例を紹介しつつ、参加を促し次に繋がるような講座があるといいと考える。SDGs も項目がいっぱいあるので、絞るなど工夫が必要。例えば、陸の緑を守る等については、その先に海が繋がっているので、プラスチック問題等テーマを決め、この部分についてストーリーがあると良い。3 番について深堀していただき、採用いただけると良いと思う。

【委員】

4 番の「狭山公園・八国山ガイドウォーク」はとても良い。先日ケーブルテレビで杉山委員のお話を拝聴した。これまでずっと東村山市に在住しているが、新たな発見があった。また外の活動なのでとても良いと思う。

【会長】

では、3 番、4 番は候補とする。

【委員】

八国山の名前が出たので、15 番 地域学講座「八国山に眠るロマン」について地元の緑や歴史について学ぶ事については、地域の方に愛着を持っていただき、住みたいまちになる等、そのような視点から歴史について触れる機会が良いと思う。

【委員】

18 番の「土曜の朝はパン作り」自分も一度だけ、パン作りにチャレンジしたが楽しかった。家族との会話に繋がってとても良い講座だと思う。

【委員】

食べ物については、現状公民館の対応はどうなのか。

【事務局】

今後の事については、不透明である。現在は利用緩和をしている中で、料理教室は1/2の定員で利用をいただいている。しかし、現在急激にコロナ感染が拡大していることから、今後は状況に応じて対応していく。

【副会長】

男の料理をやったことがあるが、とても楽しかった。パン作りなら手軽に家で出来るので良いと思う。

【委員】

食べる時間がないのであれば、時間をずらして、交代制にしてもできるのではないかな。また、焼き上がる時間までに交流の時間もあるので良い。焼くだけなら、オンラインで行っているところもあるが、きっと講座を行う時期には状況も変わっているので、実際に集まり、講座を開催した方が良いと考える。

【会長】

他には、13番「色彩学」、16番「色鉛筆画を楽しむ」はどうか。

【副会長】

個人的には、13番、16番はとても関心がある。このような講座があるのであれば参加してみたいと思う。

【会長】

色彩学等は、学校ではどのような事が行われているのか。

【委員】

小学校の図工では、2年生、3年生の時に絵の具の色を混ぜたり、4年になれば、色水を作ったりと児童は、とても興味をもっている。

【委員】

13番はカラーリストと記載があるので、民間の資格がある方が講師として、行うと想定される。16番の色鉛筆も講座をきっかけにサークルとして活動していく人もいるのではないかな。

【会長】

色鉛筆画は、秋津公民館でサークルとして活動している。

【委員】

2番の「ITリテラシー」については、使い方のような気がする。その後の使い方講座やオンライン会議の参加の仕方等は他市の公民館の講座では人気であった。リテラシーなので、やってはいけないこととか、使い方であり注意しないとイケないとか、そのような事も含まれているのかと思う。他市では、コロナ禍の新たな繋がりの中で地域との関わりを作らしようという講座の中でオンラインの様々な会議システムの

違いや、使用時の注意点やオンラインでのファシリテーションスキルや地域の中で使っていくかというところに注目をおいたやり方で講座を行ったことはある。
2番に関しては、やり方による。オンラインであれば、募集の仕方によって変わる。

【会長】

東村山市の公民館では、オンラインが出来る環境が整っているのか。

【事務局】

常設はない、今後の検討課題である。

【委員】

9番「英語(オンライン英会話を含む)」は良いと思う。公民館で行うのであれば、大学の授業のように講師が一方的に話すのではなく双方で対応出来る方がコミュニケーションをとることが出来ると思う。オンラインを試しに行ってみるのはどうか。

【委員】

10番「親子工作教室」はオンラインでも出来るのではないかと、在宅勤務で働きながら、子供の面倒を見ている方も多くおり、来年以降、コロナの状況もわからない中で、家で子供が簡単に作れる遊び方なども教えていただけると需要があると思う。また対面で講座を実施し参加できない場合はオンラインで参加できる形でもよい。

【委員】

大学で実施したのは、キットを事前に送りオンラインで行った。最後にみんなで完成した作品を見せ合った。

【委員】

狭山公園でも、発生材・木材・ひもを使用して写真立てを作成出来るようなキットを用意しイベントを行った。

【会長】

先ほど、意見があった16番の「色鉛筆画を楽しむ」はどうか。

【委員】

キーワードで、どの項目が「色鉛筆画を楽しむ」に該当しているのか。

【会長】

実際に活動を見たことがあるが、女性の参加が多い

【委員】

20番「はじめての手話」は、今、おこなっているのか。

【事務局】

数年前に実施し好評であった。

【委員】

出来れば、サークル化をして関係所管または公民館利用団体に依頼できると、とても

良い。地域に還元する意味でも協力していただける団体があれば、実施してほしい。

【委員】

10番の「親子工作教室」は、日曜日に開催であれば保護者も参加しやすいと思う。

【委員】

事前に講座は資料を確認し10項目を選定してきている。基準としては、30歳代・40歳代の方が参加しやすいということを考えて。曜日や時間帯はどのように考えているのか。

【事務局】

今後の講師との話し合いだが現状では14時～16時の開催が多い。

【委員】

この時間帯では、働いている方は参加出来ないのではないかな。

【事務局】

土日開催など検討する。

【委員】

30歳代・40歳代の方が参加できるよう曜日・時間帯を考えてほしい。

【会長】

哲学カフェなど現状ではどうか。

【委員】

哲学カフェについては、都内にも結構ある。今回の視点としては、30歳代・40歳代の参加の促進について議論しているが、その年代以外の方達が参加出来なくなってしまっはいけないと思う。バランスを考えていかないとせっかく参加するにあたって、興味がないような状況は避けないといけない。

【委員】

講座内容を見たときに、全ての年代の方が参加しようと思えるようバランスを考えて選定を行うべきである。開催日や時間などもよく検討した方がよい。

【委員】

花の講座についてはどうか。

【副会長】

東村山市は、お花の農家が沢山ある、直接栽培のテクニックを聞かせてもらうのもよいと思う。映像で配信するとより多くの方が参加するのではないかな。農家の内部を見ることが普段は出来ないなので、そういった事も実現できると良いと思う。

【委員】

他市では、このような講座をきっかけに農家にボランティアに行く人もいる。

【委員】

東村山を知ってもらいたい機会ではある。

【委員】

全てが、30歳代・40歳代が参加できる講座ではなくバランスよく選定していくことが大切である。

【委員】

東村山は手話の登録ボランティアはあるのか。

【事務局】

市の行事の際には、社会福祉協議会に手話を依頼している。

【委員】

手話であれば、年齢関係なく学ぶことができる。その後の活動に繋がるのではないか。

【会長】

これまでの話し合いの中で、ある程度絞られてきているのではないか。
候補として番号で示すと、3番、4番、10番、15番、16番、18番、19番、20番の8つ候補が出ている。

【委員】

30歳代・40歳代を意識すると8番「子どもの個性をみつけて伸ばす十人十色の子育て講座」は子供と居る時間が増えている中で、子育ての中でのストレスが溜まることがあると思う。自分自身も実際体験して大変だと感じた。親として些細な事で子供の事が心配になることもある中で、なかなか、コミュニケーションが取れない状況でこのような講座があると救われる方も居ると思う。

【委員】

他市の成功事例を参考にするとあるがどこの市なのか

【事務局】

都内と伺っている。

【委員】

親は心配な事をいろいろと本やスマホ等で調べて不安になってしまう。安心させてあげる必要がある。

【委員】

孫を育てる世代に現状の子育てを知ってもらいたいと思う。

【委員】

共に理解しながら、子育てについて学ぶことで良い関係が保たれるのではないか。

【委員】

今後は、家庭社会や防災についてとても重要だと考える。女性の社会進出や女性の視点で、考える中でそういった内容の講座も入れるべきだと思う。

【委員】

1 番の「家庭社会学、犯罪社会学、女性の社会進出」は、良いと思うが範囲がとても広いので、まずは 8 番の「子どもの個性をみつけて伸ばす十人十色の子育て講座」を少しずつ取り組んでいければいいと思う。

【委員】

防災に関して言えば、避難所運営等は、コロナ禍の中で人を集めて行うことが困難な状況であると思う。

【委員】

6 番の「在宅勤務と地域の防災（女性目線の避難所運営）」についての内容の落としどころがどこなのか。実際に被災地の避難所だと女性はこんな事に困ったので日頃からこのようなことに備えておこうというところなのか、避難所運営側にどのようなことを求めるのか、どちらかというところなのか、避難所運営側の方が現実的ではないか。後者の方であれば、関係者を呼ばないと講座を行えない。

【事務局】

市民相談交流課にて、2 月に「どう備えるどう支える女性の視点を活かした防災講座」が開催予定である。公民館でも様々な講座を検討しているが、例えば子育て等、課題としているテーマがあり庁内でも様々な講座が展開されていることは共有させていただきたい。

【委員】

6 番を実施するのであれば、公民館ならではの内容にしないといけないと思う。1 回で終わるシンポジウムではなく、どのようなことが障害になるのか学び、それを解決するには、自分たちがどのようにしていくのかを考えられるところまでいくと、公民館らしい講座になるのではないかと思う。

【委員】

防災や在宅勤務のテーマを取り組むことはとても重要であると考えている。

【委員】

在宅勤務であれば、避難所の活動だけでなく、近所で避難が遅れた人を救助するなど、することもできると思う。

【副会長】

避難所という言葉を使わず「地域の防災に備えて」等にするとよいと思う。在宅の方も居ると思うので、地域でどう災害に備えるのかそのような内容であれば、直ぐに出来るのではないか。

【委員】

6番については、避難所という言葉ではなく地域の防災等にすれば良いのではないかと。

【委員】

会場で行うと密になってしまうので、なるべくオンラインと併用して行うことが、今後の講座は必要であると考えている。ライブでなくても後日配信すればよい。

【委員】

オンラインに向いている内容もあると思うので、今後しっかり企画の段階で検討する必要がある。

【委員】

6番については、個人的に募集を行って、どれくらいの方が参加を希望するのかが読めない。できればもう少し高齢の方が参加できる講座を入れても良いのではないかと。

【委員】

6番の集客の工夫として、八国山も広域避難場所として指定されている場所でアウトドアを組み込んだテーマで実施したことがありとても好評であった。

【委員】

20番の「はじめての手話」は他で習うことも出来るので、7番の「哲学カフェ」を入れることで、バランスが良くなると思う。

【委員】

この審議会でもずっと話していたように公民館の集客についても、考えることも大切である。

【会長】

では、皆さんの意見をまとめた結果、3番、4番、6番、7番、8番、10番、15番、16番、18番、19番の10の講座でどうでしょうか。

全員一致

【事務局】

今後、細かな内容については、企画の段階で講師等、精査をさせていただき準備を進めてまいりたい。

【会長】

では、次の議題の今後の進め方であるが、答申に向けての中間報告を提出したが、今後は限られた時間で答申をまとめるのか、今後のスケジュールなど事務局より説明をお願いします。

【事務局】

今後の進め方についてご説明させていただく。先日「答申に向けた中間報告」を提出していただいたが、今後は答申の提出10月までの間どのように進めていくのかこの会議の中でも、ご議論いただいているが、講座の募集の仕方やアプローチ方法等、近

隣の先進市に伺うなどして良い事例を取り入れてまいりたい。今後の審議会で情報提供を行ってまいりたい。

【会長】

具体的な訪問先は決まっているのか。

【事務局】

小平市、国立市、国分寺市である。

【事務局】

これまでの審議会でもご助言いただいております、出来ればこの場で直接勉強会を行う案もあったが、コロナ禍の中、大人数で他市の公民館にお伺いすることが困難であるので、必要な事項を事務局で情報収集しながら、随時資料提供を行っていく。今後の予定としては、2か月に1回程度、行っていく予定である。

【委員】

今後、審議会についてはオンラインで参加出来るとありがたい。

【事務局】

検討していく。また10月までには、コロナの感染状況にもよるが4回審議会を開催する予定である。

【会長】

では、本日の審議事項はこれまでとする。では次に報告事項を事務局より説明する。

【事務局】

市民講座「東村山の文化と芸能活動」と多摩北部5市美術展は、11月16日に同時開催した。東村山市は5年に1回の当番市であり、各市を代表する著名な画家の作品を展示した。「シニア学級」は参加者も多く好評であった。「かめのご学級」は、コロナの影響もあったが開催することができた。1月29日に中央公民館で寄席を行う予定である。白梅学園大学の講演事業は、1月25日が最終回である。

(1) 次回日程について

【会長】

次回は令和4年3月28日(月) 18時より中央公民館にて開催する。